

北海道浮魚ニュース

平成 27 (2015) 年度 13 号

2015 年 8 月 25 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎スルメイカ漁場一斉調査結果 (道南太平洋海域)

8 月下旬のスルメイカ分布密度は、木直沖では昨年並みであり、下北半島東沖では昨年を上回った。外套長のモードは昨年及び過去 5 年平均と同じ 21cm にあった。

8 月 19 日から 21 日にかけて、浦河沖から下北半島東沖にかけての道南太平洋、及び函館沖で函館水試調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

1. 水温分布 (図 1、2)

漁獲調査点 4 地点の表面水温は 21.0 ~ 23.6 °C (昨年 19.6 ~ 21.2 °C) にあり。水深 50m の水温は 7.2 ~ 20.2 °C (昨年 10.5 ~ 16.1 °C) の範囲にありました。水深 50m 層の水温分布は、青森県下北半島周辺では昨年より高かった一方、渡島太平洋から胆振海域にかけて水温 10 °C を下回る昨年より低水温の海域がみられました。

なお、本調査では 2015 年から海洋観測の調査点を一部変更しました。漁獲調査点については変更はありません。

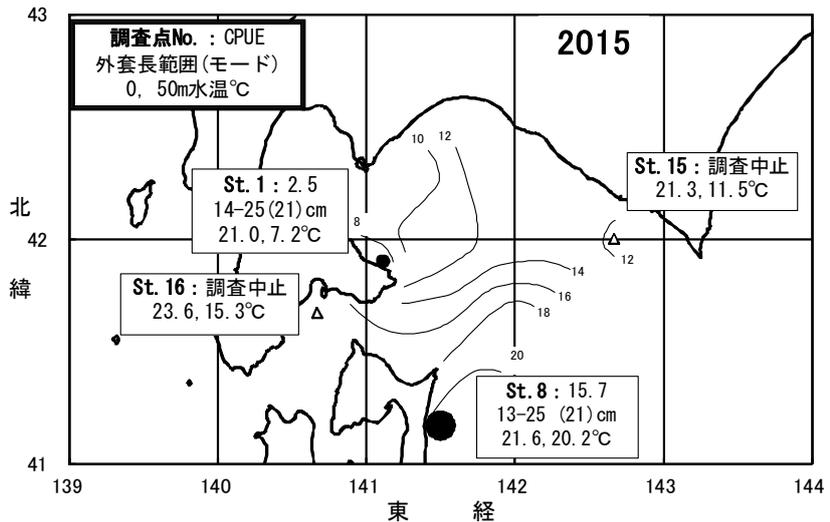


図 1 2015 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 19 ~ 21 日)。●は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布

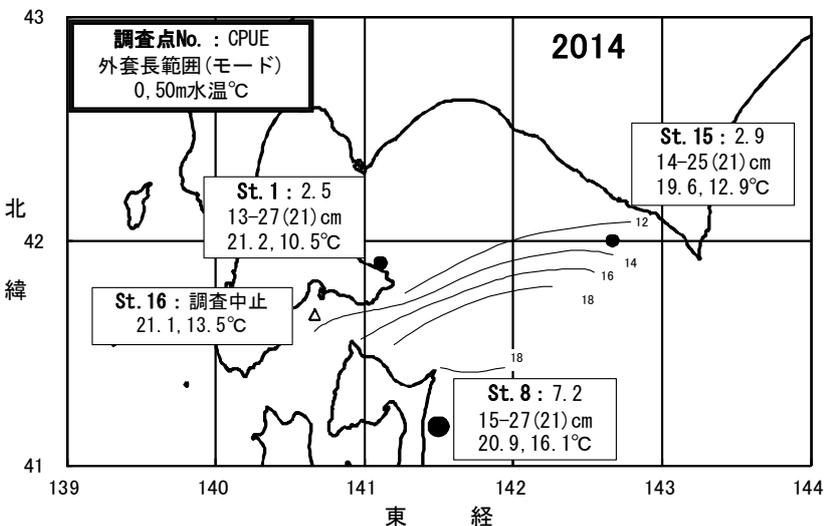


図 2 2014 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 18 ~ 22 日)。●は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋8月）のCPUEと外套長の経年変化。2010～2013年のSt.1, 8, 15は釧路水試調査船北辰丸により実施。

	2010(H22) 8/19-8/25	2011(H23) 8/17-8/26	2012(H24) 8/21-8/24	2013(H25) 8/21-8/24	2014(H26) 8/18-8/22	2015(H27) 8/19-8/21
St.1(木直沖)CPUE	0.4	5.2	3.0	2.7	2.5	2.5
St.8(下北半島東沖)CPUE	0.2	1.7	0.8	3.1	7.2	15.7
St.15(浦河沖)CPUE	1.1	1.0	8.0	5.0	2.9	-
St.16(函館沖)CPUE	3.1	2.1	7.4	1.5	-	-
平均CPUE(尾/(台・時))	1.2	2.5	4.8	3.1	4.2	9.1
外套長の範囲(cm)	12-26	10-26	12-25	12-26	13-27	9-26
外套長モードの範囲(cm)	18-22	19-22	20-22	21-22	21	20-22

2. 分布密度

漁獲調査点4地点のうち調査を実施した2地点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は、木直沖St.1が昨年並みの2.5、下北半島東沖St.15が昨年(7.2)を大きく上回る15.7でした。平均CPUEは9.1で、過去5年の全4地点及び同じ調査点2地点の平均（それぞれ2.7、3.1）を共に上回りました（図1、表1）。

3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、全調査点で13～25cm（昨年13～27cm）の範囲にありました（図1、3、表1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は昨年及び過去5年平均と同じ21cmにありました（図3）。

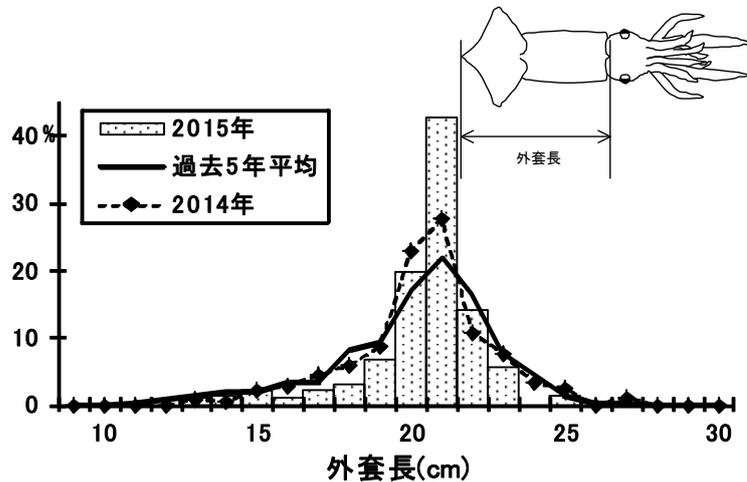


図3 海域全体の外套長組成

4. 標識放流（図4）

8月20日に下北半島東沖St.8で210尾の標識放流を行いました。放流を行ったイカは、「HK」の文字と「525」から「734」までの3桁の数字が黒い文字で記入されたピンク色のスパゲティ型タグがヒレの部分に打られています。標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで報告いただきますよう、よろしくお願ひします。

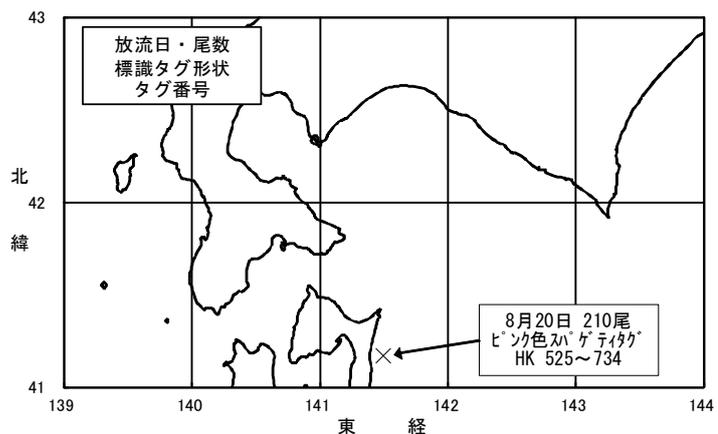


図4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識の形状と番号

（函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）